

市は平成二十四年度の保育所・園（以下、保育所）の入所申込の受け付けを十二月十五日（木）から始めます。なお、震災により休園していた竹駒保育園も、四月より同地区の仮設園舎で再開予定であるため、ほかの施設と同じく入所申込を受け付けます。

保育所には、①就労②出産③疾病④看護⑤災害対応などの理由により、家庭内で児童を保育できない場合に入所することができません。

▽申込方法 申込書や各種提出書類は、市内の保育所と市社会福祉課で、十二月十一日（月）から配布、十二月十五日（木）から二十一日（木）まで受け付けを行います。

※新規に入所を希望する児童については、一月に第一希望の保育所（園）で面接を受けてください。

▽保育料 「平成二十三年分所得税」と「平成二十二年分の市民税」額で決定されます。下記の徴収基準表を参考にしてください。

詳しくは、申込用紙とともに配布される『保育所入所申し込み案内』または、社会福祉課児童福祉係（内線201）および各保育所（園）まで。

■施設所在地および連絡先

施設名	所在地	電話
高田保育所	米崎町字川内140-1	54-3157
長部保育所	気仙町字牧田8	55-3031
小友保育所	小友町字柳沢前114	56-2800
矢作保育所	矢作町字二又20-4	58-2204
米崎保育園	米崎町字川内128-2	55-3047
下矢作保育園	矢作町字諏訪44	55-2523
横田保育園	横田町字黄金山44	59-2023
広田保育園	広田町字天王前52	56-3000
竹駒保育園	竹駒町字館地内仮設園舎	55-3047 (米崎保育園)
広域入所	社会福祉課で対応	54-2111



■平成23年度保育料徴収基準表（参考）

階層区分	適用	3歳未満児	3歳児	4歳以上児
A	生活保護世帯	0	0	0
B	非課税世帯	6,000	4,000	4,000
特B	非課税世帯のうち母子世帯など	0	0	0
C1	市民税均等割のみ	13,000	10,000	10,000
C2	市民税所得割	16,000	13,000	13,000
C3	市民税所得割5,000円以上	18,500	15,000	15,000
D1	所得税円2,000円未満	21,000	18,000	18,000
D2	所得税2,000円～5,000円未満	24,000	21,000	21,000
D3	所得税5,000円～10,000円未満	26,000	23,000	23,000
D4	所得税10,000円～20,000円未満	28,000	25,000	25,000
D5	所得税20,000円～40,000円未満	30,000	27,000	27,000
D6	所得税40,000円～71,000円未満	33,000	30,000	28,500
D7	所得税71,000円～103,000円未満	36,000	33,000	
D8	所得税103,000円～413,000円未満			
D9	所得税413,000円以上			

保育 平成24年度保育所（園）入所申し込みのお知らせ

竹駒保育園への入園を希望する人に対しては、市社会福祉課および横田・下矢作・米崎の各園で、申込用紙の配布・受け付けを行います。

早すぎる別れに参列者が涙
悲劇を二度と繰り返さないと御霊に誓う

合同慰霊祭

東日本大震災による津波で亡くなられた多くの方々に哀悼の意を表するため、10月22日（土）に高田小学校で合同慰霊祭を行いました。

この日は、雨が降りしきる中、約2,000人が参列。式の冒頭で1分間の黙とうを捧げました。主催者を代表し、戸羽市長は「あの日、大津波によって大切な人たちを一瞬のうちに奪われた。この悲劇を二度と繰り返すことのないよう、震災の教訓を生かし、市民が一丸となって復興に向けて前進していきたい」と式辞を述べました。



祭壇に向かって献花をする参列者

また、遺族を代表して村上孝嘉さんが「あまりに突然の出来事で、家族を亡くしたという実感が湧かない。避難誘導にあたった警察官の方々や地域のリーダーを津波で亡くしたことを思うと、悔やまれてならない。今回の教訓を後世に語り継いでいきたい」と追悼の言葉を述べました。

式の終わりに、参列者が白菊を祭壇に供え、鎮魂の祈りを捧げました。

強い使命感と崇高な消防精神に敬意
最後まで懸命に市民を守り続けた52人の尊い命を悼む

消防慰霊祭

市は、10月23日（日）に高田小学校で消防慰霊祭を開催し、津波で亡くなられた消防職員1人と消防団員51人に哀悼の意を捧げました。

この日は、ご遺族や消防関係者、消防団員など約700人が参列。戸羽市長は「消防団員の任務を遂行するため、市民の生命と財産を守ろうと、尊い命を殉じられたことは痛恨の極み。献身的な活動に敬意を表し、今後は防災体制に万全を期し安全、安心なまちに復興していくことを誓います」とあいさつ。



祭壇に向かって献花をする消防団員

また、市消防団の佐藤勝団長は「ご遺族の心情を察すると言葉もありません。地域防災の要として、日夜献身的に活動してきた団員を亡くしたことは、市消防団にとって痛恨の極みです。この業績を後世に語り継ぎ、皆さんの犠牲を無駄にしないよう、安心して安全なまちをつくっていきます」と、二度と津波で命を落とすことのないよう、追悼の言葉を述べました。

式では、参列者が花を手向け、御霊の冥福を祈りました。